

彦名通信



COMMUNICATION MAGAZINE NATIONAL INSTITUTE OF TECHNOLOGY (KOSEN), YONAGO COLLEGE



高専祭カフェ企画



放送部、NHK杯全国高校放送コンテスト 創作テレビドラマ部門にて初優勝

Index

高専祭特集

1年	3
2年	4
3年	5
4年	6

特別行事特集

1年 (企業見学・遠足)	7
2年 (地域学 (オープンファクトリー))	8
3年 (工場見学旅行)	9
4年 (インターンシップ)	10

課外活動等報告

おもな大会成績・学生主事コメント	11
卓球部・放送部・全国高専将棋大会	12
高専ロボコン・高専プロコン	13
国際交流活動・海外派遣	14-15
卒業生は今 (Vol. 30)	16

としょぶらり	17
--------	----

高専祭を開催しました

学生会長 5M 平田 琉 稀

今年度の高専祭は、一般の方も参加可能となったことで、クラス企画や模擬店、展示企画など例年以上に盛り上がり、無事に終わることができました。私も多くのクラス企画や模擬店を巡りましたが、今年度の高専祭テーマである「DROP that 全部放り投げて楽しむ」を体現したかのような、まさに高専生の自由な発想と表現が光る企画ばかりでした。個人の有志企画や、体育館でのステージ企画も大盛況で、学生たちが主役となり、最高の高専祭を作り上げることができたと感じております。

最後に、高専祭を準備して下さった先生方と学生会執行部、高専祭を盛り上げてくれた学生の皆さん、そしてご協力いただいたすべての方々的心よりお礼申し上げます。

高専祭実行委員長 4C 長谷川 日 葵

今年度の高専祭は、4年ぶりとなる一般参加可能な形で開催することができました。4年生以下の学生にとっては一般参加での開催は初めてでしたが、高専祭名物である軽音楽同好会ライブも2日間行われ、各クラスの飲食企画、個人の有志企画など、盛り上がったことが非常に嬉しかったです。ご協力いただいた学生、先生方、保護者の皆様へ心からお礼申し上げます。学生全員が楽しめる高専祭を築くのは大変でしたが、次の世代に続く伝統として大切にしたいと思っています。来年の高専祭がさらに素晴らしいものに発展することを心から願っています。



学生会メンバー



高専祭2日目の様子



茶華道部お茶席



軽音楽同好会ライブ

高専祭クラス企画 1年生

11月2日・3日高専祭

1年学年主任 川邊 博

高専祭は学生たちの普段は見られない能力が咲き乱れる場で、教員から見ても驚きと感心の連続です。豊かな個性が集まれば、時間もかけず一丁やってみるかとか協力して想像以上のものを作り上げてしまう創造力と団結力を頼もしく感じます。より良いものにするためにそれぞれが工夫を出し合い、役割に真摯に取り組む表情はみな輝いています。来てくれた人に喜んでもらえるのが嬉しいという充実の笑顔とその思いが学生の内面をさらに磨くようです。

楽しかった高専祭

1-1 石田 皇 翔

1年1組は、フォトスポットを企画しました。作成中に材料がなくなり買いに行くということも発生しましたが、みんなで協力してとてもクオリティが高いものができました。来場してくださった方々の反響も良かったです。初めての高専祭でしたが、クラスの団結力を実感でき、最高の思い出となりました。



高専祭

初めてのクラス企画

1-2 三宅 希 来

当初、クラス企画はお化け屋敷ということしか決めておらず、具体的な仕掛けが決まっていなかったため準備が終わるかどうかが焦っていました。しかし、その仕掛けについてアイデアを出し合った結果、全体が徐々に動き始め、若干のトラブルがありつつも、当日はとても多くのお客さんを楽しませることができ、やりがいを感じ思い出に残る楽しい高専祭になりました。



高専祭を終えて充実の1年2組

高専祭をおえて

1-3 田口 慧

私たち1年3組は、クラス企画として「フォトスポット」と「謎解き」を行いました。今回の高専祭を通して学んだことは、「人を知り、人を通じて、自分を知る」ということです。

準備や制作では、それぞれが自分の長所を最大限に活かして、その人の得意なことを知ることができました。またそれと同時に、自分の役割というものも見えてきて、互いに補い合って進めていく大切さを改めて実感できました。相手のことを知れば、自分とは異なる得手不得手が見つかり、それを通じて自分の長所や短所を自覚できます。初めての高専祭は、楽しみの場であり、学びの機会でもありました。



フォトスポットでの記念写真

二人三脚

1-4 松本 小太郎

私は、お化け屋敷の企画を担当しました。私たちは、視点の誘導に重点を置いてお客さんを惹きつけるような小道具を作り、その裏をかいて驚かすことを意識しました。予想していたよりもたくさんの方が驚いてくれて、作ってよかったなと思いました。クラスのみならず一緒に一つのものを作り上げるのは、本当に楽しかったです。



高専祭クラス企画の様子

高専祭企画を振り返って

1-5 杉 菜月・白石 すみれ

高専祭も無事に終わりホッとしています。今回の反省点は2つあり、1つめは計画的に出来なかったこと、2つめは意見の食い違いがあったことです。相手が何を伝えたいのか汲み取ったり、話し合いの場を設けることが大切だと感じました。トラブルもあったけど、今回の出来事で学べることもたくさんあったので今後活かしていきたいです。



縁日の企画を行いました

高専祭クラス企画 2年生

大変盛り上がった高専祭

2年学年主任 教養教育部門 竹内 彰 継

今年の高専祭では2年生のクラス企画は飲食店不可でしたが、アンパンマンショーやお化け屋敷など、すべてのクラスで力が入った企画が立案されました。さらに、コロナ以降初めて外部の方々に来ていただけるとあって、準備段階から非常に盛り上がっていました。当日は天候にも恵まれ、たくさんの方々にご来場いただけ、2年の学生達も楽しみながら運営していたのが非常に印象的でした。

高専祭でビンゴ大会を行いました

2-1 (C) 渡部 しいな

私たちは、高専祭でビンゴ大会を行いました。今年の2年生はどのクラスも気合いが入っていて、どれくらい人が集まるかわからず不安でしたが、SNSでの宣伝等もありかなりの盛況でした。こうして自分たちで企画を立てて何かをする体験は、学校生活でも沢山あるものではないと思います。学生の本分は勉強とはいいますが、こういった行事も大切にしていきたいと思いました。



ビンゴ大会は盛況でした

助力を仰ぐ大切さ

2-2 (A) 里道 俊亮

私は高専祭を通じて、人に悩みを打ち明ける大切さを実感することができました。初めは実行委員として準備にどう取り組めばよいのか分からず苦労していました。そこで、思い切ってクラス全体に助けを求めたところ、今まで行き詰っていた様々な問題が嘘のように解決していき、無事に企画を成し遂げることができました。

また、普段話すことがなかった人と関わることでみんながお互いの新しい面を見つめることができたと感じています。



お化け屋敷の前で

高専祭を終えて

2-3 (C) 山田 ゆな

高専祭での劇は前例がなく、本番1週間前まで脚本が完成せず、被り物や置物、服の用意も手間取り、練習がグダグダで不安もありました。しかし、当日はショーが始まる10分前まで精一杯練習しました。本番では子供から大人まで多くの方が詰めかけ、笑い声も絶えず、その光景に感慨深い気持ちになりました。クラス企画を通して、仲間たちとの結束が深まり、新たな友情が芽生えたと感じます。



アンパンマンショーのキャスト達

クラス企画「謎解きゲーム」

2-4 (A) 霧亀 琥太郎

2年4組は、クラス企画で脱出ゲームを行いました。無料企画ということで、当日は多くの方々に楽しんで頂くことが出来ました。テーマは「脱獄」で、準備期間では主に監獄の雰囲気を出せるような小道具作製を頑張りました。難易度を高く設定したため、脱出に成功できた人はとても少なかったですが、友達と協力して謎解きを頑張る姿を見て、こちら側も達成感を感じることが出来ました。来てくださった皆様、ありがとうございました。



高専祭の様子

思い出になった高専祭企画

2-5 (A) 柴崎 琉輝

2年5組は高専祭でお化け屋敷をしました。私はリーダーとしてお化け屋敷を企画し、クラスのみんなと協力してダンボールを運んだり、必要なものを買ってきたりして、準備を順調に進めることができました。高専祭当日、思ったよりも多くの方が来てくれました。沢山の人がお化け屋敷の中で絶叫していて、とても面白かったです。

高専祭が終了して、友達から「お化け屋敷を企画してくれてありがとう。とても楽しかった。」と言われた時には思わず涙がこぼれそうでした。みんなの思い出にもなる高専祭企画ができて良かったです。



行列の絶えなかったお化け屋敷



高専祭が終わってみんなで記念撮影

高専祭クラス企画 3年生

高専祭を終えて

3年学年主任 権田 岳

11月2日～3日の日程で、今年度の高専祭が開催されました。今回は久しぶりに入場者制限のない高専祭となり、そして、天候に恵まれた2日間となりました。本科3年生にとっては、入場者制限のない、初めての賑やかな高専祭となり、各クラスの模擬店・企画には、本校学生のみでなく、保護者の皆さま、近隣の方々をはじめとする多くのお客さまが訪れ、楽しい高専祭となったようです。

高専祭のクラス企画

3M 大倉拓真

3Mではクリームソーダを販売しました。クリームソーダをやるうという意見が出た当初は、「時期的に売れないんじゃないか?」と思っていたのですが、いざ準備を進めて当日を迎えると季節外れの暖気にも恵まれてそれは飛ぶように売れていきました。最終的に販売目標の6倍の販売数を記録し、嬉しさと驚きが入り混じっています。



3Mクラス企画「クリームソーダ」

高専祭の前と後

3E 片平美有

高専祭を通して、コミュニケーションの輪が広がり、前より居心地の良いクラスになったと思います。それまで話をしていなかった人同士が協力し合い、運営していく様子を見て、高専祭の前と後でチームワークの変化を感じました。中心になって活躍してくれる人、任された仕事をきちんと全うする人が多く、クラスメイトの新しい一面も知ることができました。これからこの仲間を重ねていく日々が楽しみです。



3Eの出店（フライドポテト）

3年目の高専祭

3J 島田優大

今年の高専祭は入場制限がなくなったことでたくさんの方が来場しました。私たちのクラスはフルーツ館の出店をしましたが、お客さんが多かったこともありとても忙しかったです。また、準備もトラブルが多くなかなか順調には進まず大変でしたが、なんとか乗り切る事ができました。今年の高専祭で、企画を運営することがどれだけ大変なのか知ることができました。来年の科展ではメタバースを試みたいです。



高専祭おつかれさま!

高専祭 クラス企画

3C 武良紗花

私たちのクラスはメイド喫茶をしました。今年の高専祭は外部からたくさんの方が来場されたため、メイド喫茶にもたくさんの方にお越しいただきました。途中で材料が足りなくなるなど様々なハプニングがありましたが、クラスの人たちで連携を取って、助け合いながらなんとか乗り切ることができました。準備期間も含めて非常に大変でしたが、クラス全員の仲が深まった、思い出に残る高専祭になりました。



高専祭：3Cクラス企画

3Aの高専祭

3A 赤路素春

私たち3Aは、お化け屋敷をしました。今年は、お化け屋敷をするクラスが何クラスもあったので、他のクラスより良いものを作ろうと全員で一丸となって取り組みました。最初は、なかなか案がまとまらずうまくいかないことも多くあったのですが全員で意見を出し合って良い物を作ることができました。当日も全員で役割分担し協力し合い高専祭を成功させることができました。



お化け屋敷受付入口にて

高専祭クラス企画 4年生

高専祭「科展」について

4年学年主任 化学・バイオ部門 田中 晋

高専祭において、4年生は、各学科の専門教育で学んだことを活かし、企画展示を行う毎年恒例の「科展」を実施しました。授業・実験で忙しく、限られた時間の中での準備でしたが、各学科とも、独自色を出した展示物を無事、用意することができました。今年度は、これらに加え、E科とA科の有志が「プロジェクションマッピング企画」を実施しました。学科合同での展示は初めての試みで、科展とともに来場者には非常に好評でした。

来年度の4年生は総合工学科になりますので、コースごとの展示となります。よって、今年が最後の「科展」になるのではないのでしょうか（来年も科展と呼んでいるかもしれませんが）。来年以降、さらに盛り上がる企画となることを期待しています。

高専祭の科展で経験したこと

4M 清水里莉

4Mはビーダマンを作りました。歯車やモーターを用い、3Dプリンタで作ったビー玉を飛ばす装置です。期間に余裕がなかったため、もう少し余裕を持って製作すればと、製作に携わった方は反省点があったようですが、今まで学んできた知識を生かしながらそれぞれの思考を巡らし、何とか完成したビーダマンは高専祭の期間中壊れる事なく動き続けてくれました。



本体製作の作業風景

高専祭を終えて

4E 山根健太

今年の高専祭で4Eは学科を代表して行う「科展」に取り組みました。科展では、イライラ棒、自転車発電などE科らしい電気を使ったものや、E科とA科の技術力を合わせて製作したプロジェクションマッピングも行いました。準備段階では思うように製作が進まないなど苦労もありましたが、当日は多くの方に科展を見たり、体験したりして頂き、「ぜひ他のイベントでもやってほしい」という期待の声もいただきました。



左上：自転車発電
右上：自転車発電とイライラ棒の体験エリア
左下：プロジェクションマッピング
右下：イライラ棒

高専祭を終えて

4D 新田流星

今回の学園祭では、科展を行いました。これまでの学校で学んだプログラムを生かして、科展ではブロック崩しゲームを作成しました。いくつかの難易度を作成し、小中学生から大人の方までたくさんの方に楽しんでいただけるような工夫を行いました。

今年から一般の方も来場され、活気ある高専祭の中で、自分たちで作ったものを楽しんで遊んでいただくという貴重な体験をすることができました。



科展の作品
(ゲームとウェブデザイン)

ハーバリウム&化学体験ブース

4C 舞立晴久

C科の科展は、モチモチスライム、ハーバリウム、ドライアイスを用いたシャボン玉、フルーツの香りという4つのブースを設けて運営しました。予算内でやり繰りするのには難しかったのですが、それでも最終的に沢山の来場者に来て頂き、楽しんで貰えたと思います。保護者の方や年少者にも楽しんで貰えるようにハーバリウムやスライムのブースを設けたためもう少し化学に寄ったことが出来れば良かったなとも思います。



モチモチスライムづくりを指導する様子

高専祭科展

4A 河崎 舞

私たちは、高専祭の科展でベンチ製作とE科とのコラボ企画プロジェクションマッピングを行いました。ベンチ製作では、製作したベンチを実際に休憩所に置き来場者の方に座って頂きました。段ボールで製作したベンチの一部は途中で壊れてしまい、修理をしたり補強をしたりと大変でしたが、たくさんの人が座っているのを見てとてもやりがいを感じました。高専祭を通して、建築学科の一部を知って頂けたと思います。



準備中の様子

展示の様子

1年特別行事（企業見学・遠足）

9月19日遠足

1年学年主任 川邊 博

遠足は午前の工場見学と午後の野外レクリエーションの組み合わせで行いました。バス確保の都合による日程変更で夏休み明け初日の9月19日（火）の実施となり、学生にとっては事前準備なしの工場見学でしたが、バスの移動中から友達との再会で話が弾み活気づいた遠足となりました。受け入れ企業の方には予定の変更に柔軟に対応していただき、また、鳥取県からの企業見学会事業費補助金も活用させていただきました。あらためて感謝申し上げます。

今回の遠足で学んだこと

1-1 寺崎 想

私たちは、遠足の工場見学で、製品の製造工程を見学し、普段目にする製品に使われている材料や部品がどのように作られているのか、そしてそれらが私たちの日常生活にどのように影響を与えているのかを知りました。私は、この貴重な体験を通じて、工場内の機械や装置の動きと仕組みに興味を持ち、また、産業の重要性や製品の価値を再認識しました。



遠足にて

クラス遠足について

1-2 酒本 陵 佑

私がクラス遠足で印象に残ったのが鳥取城跡の石垣です。私はその日巻石垣を初めて見たのですが、そこで会った地元の人に巻石垣が元の石垣の補強のために作られたなど詳しく教えてもらえたことで石垣について興味がわきました。これから色々な石垣を見て回りたいです。



鳥取城天球丸跡にて

工場見学を終えて

1-3 澤田 真優

今回私たちは鳥取ロボスターツールに伺いました。鳥取ロボスターツールは100年以上続く歴史のある会社で、製造部門は鳥取にしかありません。工場は部門ごとに細かく分かれており、それぞれのチームでこだわりのある作業をしておられました。工場ではロボットも多く動いており、手作業のところと機械がする作業とうまく分担されていてすごいと思いました。実際の企業を見て、たくさんの知識を得るといふ貴重な体験をさせていただきました。



工場見学写真

後期のスタートライン

1-4 松江 尋友

後期初日の9月19日の午前中にTVC株式会社に工場見学に行きました。ゴムの製造について、実際に作られているところを見ながら勉強させていただきました。知らないことばかりでしたが、実際に見ると興味が湧いていい勉強になりました。午後は森の国でバーベキューやアスレチックをして、クラスの絆を深めました。



大山森の国での様子

遠足の感想

1-5 小川 葵紗・松川 香帆

高専に入って初めての課外学習でしたが、皆がそれぞれ自分たちで、どうしたら楽しく色々なことが学べるか試行錯誤しながら予定を立てていて、とてもいい雰囲気でした。話したことの無い人とも一緒にご飯を食べるなどして仲良くなることができ、クラスの仲がより深まったように感じられました。



大山森の国で

2年特別行事 地域学 (オープンファクトリー)

地域学の校外研修旅行を振り返って

2年学年主任 教養教育部門 竹内 彰 継

2年生は、11月16、17日に「地域学」の校外研修旅行を行いました。「地域学」とは従来のオープンファクトリーを授業化したもので、地域や地元企業への理解を深めるために総合工学科で新しく導入された科目です。見学させていただいた企業では懇切丁寧にご対応いただき、学生達は将来に向けて非常に良い経験ができました。ご多忙中、研修旅行にご協力くださいました企業の皆様方、この場をお借りしてお礼申し上げます。

有意義な校外研修旅行でした

2-1 (E) 藤原 大 翔

2年1組は、鳥取県金属熱処理協業組合、リコーITソリューションズ(株)、(株)懸樋工務店に行きました。それぞれの企業の社員の方々のお話や工場やオフィス、建設現場の見学によって普段の授業では学べない様々なことを感じることができました。特に(株)懸樋工務店の建設現場の見学では、耐震工事中の足場に上り、素晴らしい経験をすることができました。



リコーITソリューションズではワークショップを行いました

研修旅行で考えたこと

2-2 (J) 大木 優芽花

私達は、1日目に山陰ビデオシステム・サテライトコミュニケーションズネットワークとモリタ製作所へ、2日目にエスパック鳥取倉吉工場へ行き、お話を伺いました。

今回は宿泊ありで複数の企業を見学させていただくということもあり、昨年よりさらに地元企業について興味を持ちました。この研修をきっかけに、今からでも将来のことを少しずつ考え、進路を決めるときに後悔しない選択ができたと思います。



モリタ製作所にて

マリタコ最高!

2-3 (A) 越道 玲 奈

1番楽しかったことは、マリンパーク多古鼻に宿泊したことです。夕食はスーパーで買い出しを行い、各班で自炊をしました。私たちの班はカレーライスとポトフとケーキを作りました。最高に美味しかったです。夜はみんなでカードゲームをして盛り上がり、朝は散歩に行って海を眺めました。みんなの意外な一面を知ることでもでき、クラスの仲もより深まり、高専生活の良い思い出になりました。



松江フォーゲルパークにてピラミッドとみんな

地域学研修旅行を終えて

2-4 (C) 比留田 董

私たちは地域学研修旅行において、中国電力ネットワーク(株)日野変電所、山陰酸素工業株式会社、三菱マヒンドラ農機(株)の3社を見学させていただきました。私たちは後期からそれぞれのコースに配属されていますが、この研修旅行を通して、将来のイメージや自分たちのしたいことを考える良い機会になったと思います。また出雲大社散策や由志園の日本庭園といった日本の文化に触れる良い経験ともなり、とても有意義な研修旅行でした。



地域学研修旅行

楽しかった研修旅行

2-5 (E) 高見 航 生

先般の研修旅行は、普通の日常生活では経験なし得ない貴重な経験となりました。私たちは地元の企業3社を見学させていただき、短い時間ではあったものの、現場で働く方々の姿が強く印象に残りました。また、私たちがレクリエーションとして訪れた遊園地「みろくの里」では、日常を忘れてみんなで楽しみました。これまでコロナ禍で、制限だらけの日々を過ごしていたからこそ、今回の研修旅行はかけがえのない思い出となりました。



アイディアソンを体験 (於 八雲ソフトウェア)



レクリエーションでクラスメイトと親睦を深める (於 みろくの里)

3年特別行事 工場見学旅行

特別行事（工場見学旅行を終えて）

3年学年主任 権田 岳

本科3年生は、10月の特別行事で県外企業の「工場見学旅行」を行ないました。近年はコロナ禍での様々な制限もありましたが、今年度も無事に実施することができました。コースごとに特色のある様々な企業見学は、学生にとって将来を考えるうえでの貴重な経験となりました。ご多忙のところ、ご協力くださいました企業の皆様、保護者の皆様、関係者の皆様がこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。

関西への工場見学旅行

3M 吉田 浩 瑛

3Mは機械系の企業2社に見学に行きました。発電用のタービン製造工程の見学ではその大きさに圧巻されました。また、熱の行き場、安全対策など今まで考えたことなかった視点から製造プロセスを体感しました。製品の加工法についても知ることができ、機械工作法の授業との関連を感じ興味深く思いました。実際に働いている方の話を伺え、将来の仕事を考える良いきっかけとなりました。



記念写真

工場見学旅行を終えて

3E 井 東 佳 希

今年の工場見学は米子を出て京都・大阪へ行きました。初日の観光では牛は牛連れ、皆同じ場所へ行きました。2日目はいよいよ見学。椿本チエインと日新電機を訪れ、職員の方の辰巳下がりて愉快的案内や、虎の如く真剣に働く方々に感銘しました。チェーンや変圧器はさることながら、多様な製品があり現場ならではの貴重な体験ができました。兎走鳥飛で充実した旅でした。今後も塞翁が馬、多岐亡羊ですが、猪突猛進に進んでいきます。



企業での見学の様子

工場見学旅行を終えて

3J 田 中 友 陽

今回の見学では1日目に半導体の企業である株式会社 ROHM 様にてバーチャル見学、及び半導体に関する講義とワークショップを行っていただきました。

また、2日目には高丸工業株式会社様 RTC 兵庫にて産業用ロボットの実運用に関する見学、講義を行っていただきました。

今回の経験から高専卒業後のキャリア・進路に対して、その道の先達たる企業の皆様からなにか掴めたのではないかと思います。



ROHM 株式会社にて

工場見学旅行

3C 稲 毛 康 仁

2日間にわたる工場見学旅行で私たちは兵庫県を訪れました。1日目は神戸街を探索し、米子とは違った風情を思う存分楽しむことができました。2日目はアサヒ飲料 明石工場とヒガシマル醤油を見学しました。どちらの企業も製品の製造に携わる従業員の少なさに驚きました。しかし、人にしかできない作業もあり、製品製造においてロボットのみで作業を完結するのは難しいことだと実感しました。この2日間の体験で多くのことを学ぶことができました。



アサヒ飲料での集合写真

大阪での建設現場など

3A 赤 路 素 春

3Aは2泊3日で大阪に研修旅行に行きました。大阪では、建設現場など普段見られない建築物が多くあり、様々な建築物を学ぶことができました。建築に対する考え方をいろいろな視点から見ることができました。またクラス内では、関わったことがない人とも話す機会が多くあり、仲が深まったと思います。建築について多くのことを学び、クラスの仲も深まった良い研修旅行にすることができました。



茨木市文化・子育て複合施設 建設現場にて

4年 インターンシップ報告

令和5年度インターンシップについて

4年学年主任 化学・バイオ部門 田中 晋

新型コロナウイルス感染対応による制限がなくなり、今年度のインターンシップは、ほとんどの企業で対面による実習が復活しました。受け入れ可能と回答いただいた企業も約410件あり、昨年度よりも1割程度増えました。鳥取県では、複数の地元企業を巡るオムニバス形式の実習が開催されるなど、新たな試みもありました。

本科4年生は5日間以上、専攻科1年生は10日間以上、夏休み期間に県内外の企業等で実習に参加しました。最近では、1人で複数の企業に行く学生も多く見受けられます。また、実習先にそのまま就職するケースも増え、インターンシップは、企業選択のより重要な機会になってきています。今後、12月23日の進路セミナー（低学年も参加可能）や冬季インターンシップなど企業研究ができる機会が用意されていますので、学生の皆さんは、積極的に活動するよう心掛けてください。

夏季インターンシップでの体験

4M 佐々木 宗也

私が今回お世話になったのは、「ダイキンエアテクノ株式会社」という主に会社やホテルなどで使われる空調機器の設備設計やメンテナンス等をされている企業でした。職種体験では、実際にエアコンの保守点検に同行させていただき、エンジニアとして働くことへのイメージを掴むことが出来ました。こちらの質問にも気前よく対応してくださり、社内の風通しのよさを感じました。



業務中の様子

インターンシップを終えて

4E 堀 来瑠美

私は、キャノンメディカルシステムズ株式会社の中四国支社で行われた、インターンシップに参加させて頂きました。普段、私が関わることの無い医療という業界で、知識が全くありませんでしたが、様々な装置の原理や仕組みを分かりやすく説明して頂き、医療機器についての知識を得ることが出来ました。1

番印象に残ったのは、超音波診断装置の実機研修です。実際に超音波診断装置を操作して自分の体内を見て、各臓器がどのように映るのかを観察しました。



インターンシップ報告会の様子

インターンシップに参加して

4D 松本 海希

私は岡山県倉敷市の三菱ケミカル株式会社岡山事業所様のインターンシップに5日間参加しました。現場実習では設備技術部に配属され、アナログメータの指示値を読み取りLilz Gauge システムを用いて遠隔監視の実現を目指す業務を体験させていただきました。

このインターンシップを通して、仕事に対する理解を深めるとともに今後の職業選択に繋がる貴重な経験を積むことができました。



実習中の様子(動力プラントの見学)

不二製油でのインターンシップ

4C 野村 瑠音

私は、以前より今高専で学んでいることがどのような場面で活用されているのかについて興味がありました。そのため、食品素材を開発・生産する不二製油株式会社(大阪府泉佐野市)にインターンシップに参加しました。実習では、有機化学の専門知識の大切さや生化学の応用についてなどを学びました。また、専門分野のことだけでなく、社員間の交流の大切さも痛感しました。このインターンを通じて、社会人の心構えや交流の大切さをより深く感じることができ、とても良い経験となりました。



不二精油が独自に開発した商品

2社のインターンシップに参加して

4A 坂口 明日香

私は株式会社ザイマックス関西と株式会社新井組のインターンシップに参加しました。ザイマックス関西はビルメンテナンス、新井組は施工管理という業務なので、比べてみてそれぞれの企業の強みや社風をより理解することができました。ザイマックス関西では実際の業務を体験させていただき、新井組では5つの現場を見学してたくさんの社員さんとお話することができました。今後はどの業界に進みたいのかをインターンシップの経験を活かして考えていきたいです。



ザイマックス関西での定期検針 新井組での充填の確認作業

課外活動・各種大会報告

校長補佐（学生） 藤 井 雄 三

多くの学生が、今年度も全国高専体育大会、全国規模のコンテスト等で活躍しています。

全国高専体育大会では、卓球女子、水泳男女で入賞しています。卓球女子は、団体・個人シングルスで優勝し、個人シングルス3連覇を果たしています。陸上競技男子、剣道女子、テニス女子も出場しましたが、上位入賞はありませんでした。全国高校総体にも卓球、空手道、少林寺拳法が出場しましたが、上位入賞はありませんでした。文化活動においても、将棋同好会が全国高等専門学校将棋大会において3位となりました。また、放送部はNHK杯全国高校放送コンテストの創作テレビドラマ部門で優勝しています。また、ロボコン、デザコンやプロコン等も頑張っています。

以下に入賞した各種大会等の結果を記し、入賞した諸君のこれまで積み上げてきた努力を称えとともに、残念ながら入賞に至らなかったその他の学生諸君の今後の精進と健闘を期待しています。

第58回全国高等専門学校体育大会 出場			
卓 球	女子団体	優勝	4 C 土江 亜依美、3 M 長谷川 ゆい、3 C 石田 朝稀、2-1 常松 世名、2-4 北尾 夏帆、1-1 石田 皇翔
	女子シングルス	優勝	4 C 土江 亜依美
	女子ダブルス	2位	2-1 常松 世名、1-1 石田 皇翔
水 泳	男子800m自由形	4位	1-2 梶村 涼太
	男子400m自由形	6位	1-2 梶村 涼太
	男子200m自由形	6位	2-5 西山 颯
	男子50m自由形	7位	1-2 森 映太
	女子4×50mメドレーリレー	7位	4 C 仲西 美月、3 A 田立 早笑、1-5 川田 愛、1-5 徳中 美桜
陸 上 競 技	男子800m	予選5位	5 D 安田 倫
	男子三段跳	決勝20位	4 D 川島 和流
	男子4×100mリレー	予選7位	5 M 高倉 幸大、5 M 下池 遼平、4 M 浦上 柊、4 C 林 大飛、3 E 本城 拓人
剣 道	女子個人の部		4 E 三浦 真歩
テ ニ ス	団体戦女子		中国地区合同チーム
	女子シングルス		2-3 原 花楓
	女子ダブルス		5 A 松原 ひな子、2-3 原 花楓
アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト2023 中国地区大会			
A チーム		予選敗退	5 M 生田 尋、2-4 齊藤 寛人、2-4 村尾 拍哉
B チーム		準決勝進出	4 D 片尾 祐行、3 J 江谷 空、2-3 假屋 朋希
第34回全国高等専門学校プログラミングコンテスト			
自由部門		敢闘賞	5 E 遠藤 陽熙、5 E 松村 有紀、5 E 和田 滯耶
競技部門		セカンドステージ進出	3 A 遠藤 諒悟、3 J 小原 和真、3 E 濱田 悠太
令和5年度全国高等学校総合体育大会 出場			
卓 球	女子シングルス		1-1 石田 皇翔
空 手 道	男子個人形		1-1 石倉 羽陽
少林寺拳法	男子単独演武		1-3 田口 慧
その他の大会・コンテスト			
第70回NHK杯全国高校放送コンテスト全国大会	創作テレビドラマ部門	優勝	2-2 白岩 周也、3 E 景山 奏、1-1 山田 唯奈、1-1 上阪 彩子、3 J 富谷 彩愛、3 M 大倉 拓真、2-1 渡部 しいな、2-3 福住 陽路、2-2 福留 莉玖、2-3 森灘 結、2-4 鶴亀 琥太郎、2-4 葉狩 羽流、2-5 今出 智子、2-5 高見 航生、1-1 神門 心彩、1-1 長尾 空、1-1 松浦 遥琉、1-1 萬場 心太、1-1 谷田 麻衣、1-3 渡邊 七海、1-4 河上 結衣、1-4 平沢 理緒、1-5 大島 董花、1-5 小川 葵紗、1-5 門脇 仁香、1-5 妹尾 美鈴、1-5 徳中 美桜、1-5 平田 心美、1-5 山田 素子
	創作ラジオドラマ部門	制作奨励	2-2 福留 莉玖、2-3 福住 陽路、2-4 葉狩 羽流、2-1 渡部 しいな、2-3 山田 ゆな、1-5 山田 素子、2-3 今岡 エリカ、2-3 森灘 結、2-5 今出 智子、1-1 上阪 彩子、1-3 渡邊 七海、1-1 萬場 心太、1-5 妹尾 美鈴、1-5 小川 葵紗、1-5 徳中 美桜、1-5 門脇 仁香、1-4 平沢 理緒、1-2 秋吉 穂果、1-5 平田 心美、1-5 大島 董花、1-4 畔上 侑依
	ラジオドキュメント部門	制作奨励	3 M 大倉 拓真、2-4 鶴亀 琥太郎、2-5 今出 智子、1-4 河上 結衣、1-5 門脇 仁香、1-1 長尾 空、1-3 渡邊 七海、1-5 小川 葵紗
第30回全国高等専門学校将棋大会	団体	3位	5 C 高虫 裕也、5 C 野田 悠成、5 M 後藤 智宏

全国高専体育大会卓球競技 女子団体2連覇・シングルス3連覇・ダブルス2位

卓球部指導教員 総合工学科(情報システム部門) 河野清尊

第57回全国高専体育大会卓球競技が令和5年8月19日(土)・20(日)に茨城県ひたちなか市総合運動公園総合体育館で開催されました。一昨年度から正式種目となった女子団体で優勝、女子シングルスで4C土江亜依美が優勝しました。女子団体は2連覇(文部科学大臣杯の授与)、女子シングルスは3連覇(特別表彰)を達成しました。また、女子ダブルスでは2-1常松世名・1-1石田皇翔ペアが決勝まで進み、マッチポイントを握るところまで相手を追い込みながら逆転されてしまいました。2位入賞を果たしました。

今年度は4年ぶりに新型コロナウイルスの影響を受けない大会となりました。インターハイ選手3名を擁し、勝って当たり前の状況の中で、プレッシャーと闘いながら、連覇という高い目標を達成できたことは、選手の努力もさることながら、支えてくださった関係者の皆様のお蔭と心から感謝しています。来年度は団体3連覇がかかります。その目標達成を目指して努力を続けて行きたいと思いをします。



左から、2-1常松、3C石田、1-1石田、3M長谷川、4C土江、2-4北尾、4M白本(マネージャー)

【放送部】NHK杯全国高校放送コンテストにて初の全国優勝!!

放送部・2-2(M) 白岩周也

7月にNHKホールとオリンピックセンター(東京)で行われた第70回NHK杯全国高校生放送コンテストの創作テレビドラマ部門にて、我々の作品「果歩は覚えられない」が優勝しました!全国高専や鳥取県勢としても「初の優勝」という快挙でした。

昨年は、新型コロナウイルスの影響で思うように活動できず、今年こそ自分たちの納得いくものを作ろうと3年生以下の放送部メンバーが一丸となって制作した作品なので、良い結果を残せて、とても嬉しく思います。本作は人の顔が覚えられない「相貌失認」をテーマとしています。多様性が求められる現代社会において『外見では分からない病』に当事者、周囲の人々がどう向き合うかを考えるきっかけに本作品が少しでもなると嬉しいです。

なお、本校は、創作ラジオドラマ部門とラジオドキュメント部門でも制作奨励を受賞しています。

作品の動画@NコンWEB
<https://www.nhk.or.jp/event/n-con/>



来年の夏までご覧いただけます。



決勝直後のNHKホール舞台上

全国高等専門学校将棋大会を終えた反省と今後の方針

5C 野田悠成

第30回全国高等専門学校将棋大会において、米子高専が10年ぶりに団体3位を受賞することが出来ました。私は、高専2年生から将棋同好会に所属し、現行のキャプテンとなりますが、一昨年は団体戦ベスト8、去年は初戦敗退となり、これまで悔しい思いを抱いていました。しかし、今年は、大会2か月前から1日当たり数十局指し、1局1局をソフト研究や同士達で反省し、徹底した対策を行いました。本番では、準決勝まで勝ち進みましたが、最後に3手詰めを見逃してしまい、逆転負けしてしまいました。まだ悔しい思いはありますが、それは1年生に継いで欲しいと思います。私は、高専卒業後も将棋をやりたいと考えていますので、同好会の同士達と共に積極的に大会や研究会に参加し、日々精進していきたく思います。



逆転された3手詰めの局面

今年度のロボコンを終えて

5M 生田 尋

今年のロボコンのテーマは、「もぎもぎ！フルーツGO ラウンド」というもので、障害物を乗り越え、フルーツを収穫するというルールでした。

Aチームでは、機械工学科の5年生3人で、他のどの高専よりも機械工学科らしいロボットを作ること为目标とし、学んできた知識の集大成となるロボットを製作しました。

中国地区大会の1試合目では不具合により、障害物を越えることができませんでしたが、2試合目では不具合を修正し、障害物を越えることができました。

今後は、全国大会で優勝できるロボットを製作していきます。最後にロボコンに協力していただいた方々や応援していただいた方々に深く感謝いたします。今後も応援よろしくをお願いします。



Aチームロボット「Two Wins」



試合前のメンテナンス

2年目のロボコンを終えて

2-3 (J) 假屋 朋希

ロボコン同好会BチームはNHK高専ロボコン中国地区大会に出場し、ベスト4になりました。今年は昨年大人数でチームを引っ張っていた5年生が引退して、人手不足、技術不足の中、低学年が中心となって活動しました。限られた作業環境、限られた予算で、低い技術力ながらも、創意工夫し製作しました。今回で人員、設備、技術力という課題をみつめることができました。今後こうした課題を改善していきたいです。また来年のために、低学年の技術向上に向けた同好会内でのロボコンを行い、



チームインタビュー



ロボットの縄越え

全国大会出場を目指して活動していきます。

第34回全国高等プログラミングコンテスト（競技部門）に参加して

コンピューター同好会 3E 濱田 悠太、3J 小原 和真、3A 遠藤 諒悟

コンピューター同好会所属の3年生3名のチームで競技部門に参加しました。競技部門は、陣取り合戦のプログラムの性能を争う競技でした。ファーストステージを勝ち抜きましたが、残念ながらセカンドステージ・敗者復活戦で敗退しました。3名とも違うコースの珍しいチームでしたがそれぞれのスキルを活かし分担して作業を行いました。大会直前での作戦変更などもありましたが最後まで諦めず試合直前まで改良を続け結果的に良いプログラムを作成できました。この大会を通して技術面でも精神面でも大きく成長できました。



競技部門 試合中の様子



会場での記念写真

第34回全国高専プログラミングコンテスト（自由部門）に参加して

5E 遠藤 陽 熙、5E 松村 有 紀、5E 和田 滯 耶
指導教員 電気電子部門 教授 松本 正 己

この秋、電気情報工学科有志が集まり「ProPose」一日常動作解析システムを開発し、全国高専プロコンに参加し敢闘賞をいただきました。このシステムは、AI技術を用いてカメラで撮影した映像から骨格を推定し、見本の動画にどれだけ似ているかを採点することができるシステムです。筋力トレーニングのスクワットなど、新型コロナ下でなまった体を動かそう！というコンセプトで、スマートフォンとAIを使ったWebアプリを作り上げることができました。ご支援・ご協力いただきました、関係の皆様はこの場を借りてお礼を申し上げます。



第34回全国高専プロコン・自由部門開発メンバー



第34回全国高専プロコン・会場サンドーム福井

国際交流活動・海外派遣について

国際交流・海外派遣が再開されました

国際交流支援室長 大野 政人

令和5年6月に教育振興基本計画が閣議決定され、その柱の1つが「グローバル化する社会の持続的な発展に向けて学び続ける人材の育成」です。簡単に言えば「国際社会との交流を増やしましょう！」ということです。新型コロナウイルス感染症が5類に移行されてから海外旅行・研修に行く人がとても増えています。米子高専でも、夏休みに中国・九州地区の高専と合同で2週間のオーストラリア研修を実施しました。コロナで海外への渡航が制限されてからはオンラインイベントに切り替えていたので現地開催は久しぶりです。工学系の専門学校にお世話になりながら、語学や工学について学習、体験する高専生向けの企画でした。次は春休みに1週間のマレーシア研修を行います。毎年、英語による理工系の授業を米子高専まで教えに来てくれる本校の留学生OBの先生が、地元のマレーシアでも協力してくれます。語学研修、現地大学生との交流、企業見学等を予定しています。今後も国際交流や海外派遣のイベントがいろいろ計画されていますので、興味がある人は、ぜひ参加して下さい。

派遣学生からの報告

シドニーでの留学を通して

1-3 杉村 実紀

僕は8月27日から9月10日までの2週間、オーストラリアのTAFEという学校に通いました。この留学を通して、英語でのコミュニケーション力を上げることと、オーストラリア人の文化や考え方の日本人との違いを体感することができました。留学中は、現地の人とのコミュニケーションが難しかったです。しかし、色々な人に積極的に質問したり、助けを求めたりすることで、だんだん自信がついていきました。自分の中で一番成長した部分は、自分はどういう人間か、ということと言語化する能力です。この経験を生かして、自分の意思を発信し、アウェイな環境でも自分の個性を活かせるように頑張りたいです。



ホストファミリーとの写真

台湾で行われたテニス大会に出場して

2-3 (C) 原 花楓

9月1日から9月8日にかけて台湾で行われたITF (International Tennis Federation) が主催するテニスの大会に出場しました。世界各国の人たちが参加する大会なので、多くの国の人たちと交流を深めることができました。今回の大会で一番大変だったことはダブルスのパートナーを決めることでした。ITFの大会では大会にチェックインをしてから、その大会に出場する人たちの中から練習などを見てその場でダブルスのパートナーを決めないといけませんでした。話す言葉を調べながら1人ずつ声をかけました。声をかけた何人かはダブルスのパートナーがすでにいて焦りましたが、オーストラリアの子がダブルスのパートナーになってくれました。大会の朝はその子が練習しているオーストラリアのチームで練習させてもらい、とてもいい経験になりました。



朝の練習終わり

トビタテ！留学 JAPAN 高校生等（第9期）による派遣

自分の当たり前とはちがう当たり前を知りに世界へ飛び出そう！

私は9月3日～9月23日の3週間、フランスのトゥールーズでフランス語の語学学校に通いました。私は、フランス語を勉強しながら、女性の雇用やエアバスで飛行機について学びました。

あまり英語が得意ではないですが、フランス語でフランス語を学び、発音などが難しくとても大変でした。ですが、言語を学ぶ楽しさに気が付いたのでとても良かったです。

フランスのエアバスで働いている方にインタビューする機会をいただき、エアバスの女性技術者を増やすための取り組みなどを教えていただいた。他にもホストファミリーにフランス人の結婚への考え方を教えていただきました。

3M 長谷川 ゆい



語学学校の友達

短期アメリカ留学を通して

米NC州デューク大学 CMER を訪問してきました。このような権威のある研究機関に訪問が叶い、また訪問を歓迎していただけたこと、この上なく有難い経験が出来たと思います。CMER との繋がりが生まれたこと、また、そのこの繋がりによって今後、日本国内におけるミソフォニアの活動、研究において科学的なサポートを受けられるようになったことは非常に大きな成果だったと感じています。CMER 訪問の前にはNY州に3週間滞在して語学を学び、国境を越えた友達と数えきれない思い出ができました。今回お世話になった全ての方へ、この場を借りて感謝申し上げます。

3C 石田 朝稀



(上) NCにて (下) NYにて

米子瓦斯グループ奨学金による派遣

決断力と行動力からの学び

私は今年の夏にオーストラリアに留学しました。語学学校に通い、放課後にはアンケート調査などの探究活動を行いました。今回留学して改めて言語の壁を感じましたが、語学学習に対する意欲向上につながりました。また、留学するという決断をし、行動に移すことでしか得られない考え方を身につけることができました。学びを活かして海洋プラスチックごみ問題を改善できるような人材、海外で活躍することのできる人材になりたいと考えています。長期期間の留学にもチャレンジするという新たな目標を達成するためにも日々の語学学習に取り組んでいきたいです。

3C 丸山 未夏



語学学校にて

フィリピン語学研修

フィリピンへの留学

私はフィリピンのマクタン島にある語学学校へ4週間の留学に行きました。目的は、英語への苦手意識をなくすことと海外の文化や環境に触れることでした。英語への苦手意識はまだ残っていますが、留学前と比べると外国人同士の英語でのやりとりにより耳を傾けるようになりました。また、日本は安全で真面目な人が多いという言葉がよくわかりました。

海外留学は自分の視野を広げることができます。英語はもちろん、人へは伝え切れない経験やニュース記事、教科書だけではわからない実際の生活などの経験ができます。興味がある方はぜひ行ってみてください。

5D 芝田 航太郎



放課後



株式会社 HIBIKI 代表取締役社長 樋 引 良 太

2004年3月 建築学科 卒業
 2006年7月 株式会社ウシオスペース (現 株式会社モデュレックス) 入社
 2019年5月 HIBIKI 設立 (個人事業主)
 2021年10月 株式会社 HIBIKI 設立

■ライティングデザイナーという職業

ライティングデザインという名前を聞いて、その職業の内容が分かる方はとても少ないと思います。ライティングデザインの内容を端的にお伝えすると光による空間デザインです。

海外では建築家と並ぶ程にメジャーな職業ですが、日本においては歴史が浅くその認知度はとても低いのが現状です。私はそのライティングデザインを主な事業内容とする会社を経営しています。これまで手がけた案件は建築・インテリア・ランドスケープ・商業空間・非商業空間等多岐に渡り、光がある空間は全て弊社の提案範囲となります。顧客も建築家やインテリア・ランドスケープデザイナー・デベロッパーや施主等多岐に渡ります。

そんな私が光のデザインを生業にするに至った背景をお伝えします。まず始めにお伝えしておく私は本科での成績が良い訳でも、秀でたデザインセンスがあった訳でもありません。本科卒業後に内装の設計施工の会社に現場監理者として就職し1年にも満たない期間で退職しました。早期に退職した理由としては施工より設計の仕事がしたかったという思いを持ちながら、就職氷河期の中でとりあえず就職しなくてはと焦って決めてしまったのが大きな原因です。退職後はインテリアのデザイン事務所でアルバイトをしながら、バーテンダーやホテルレストランのアルバイトを掛け持ちする生活を送っていました。転機となったのはバーテンダーのアルバイトです。お店にいらっしゃったデザイナーのお客様との会話の中で光をデザインする仕事があると聞き、単純に格好良いと思った私はすぐに会社を調べ応募しました。運良く見つけたその会社は日本にライティングという文化を広めた会社で、2年間アルバイトで下積みを経験した後、正社員としてライティングデザイナーになりました。そこでは光のイロハを学び、様々な案件に携わる事で案件に応じた最適な光の在り方を提案させていただきました。その会社で13年間勤務し、会社ではなく自分の力で提案したいと考え2019年に独立、2021年に法人化し現在に至ります。

光自体は人の目で視認する事は出来ません。照射される対象と反応する事で初めて光は認識され、対象自身も光に照射される事で初めてその魅力を表します。その中心にいるのは全て人の営みです。光は人の営みに無くてはならない物です。光によって構築される様々な要素との繋がりを人の営みを中心に考える事を私は仕事する上で最も大事にしています。前述の様に多岐に渡る案件の光をデザインする上で、その業態のセオリーを理解し最適な機能性、意匠性を作り、心地良く面白いと感じていただける提案を出来るのが、この仕事の醍醐味と感じています。

多数派が正義という世の中では、一般的に最初に就職した会社をすぐに辞めるのは人生のマイナスと捉えられますが私はそうは思いません。デザインと全く関係が無いと思われるバーやレストランの経験も現在の顧客に繋がっています。全ての経験は必ず自身の糧になり、繋がっていくと実感しています。学生の皆様にはこれからの人生で1回2回の失敗でへこむのではなく、広い視野で物事に取り組みそういう繋がりを作っていただきたいと考えます。

最後に、「人の営みを中心に考える」というこの言葉は本科4年の時にゼミで先生がおっしゃった言葉です。今でも私のデザインの礎となっています。恐らく先生も覚えていない言葉ですが私にとってはこの言葉と出会った事が高専に入って一番良かった事と感じています。

いつか皆様が社会に出て、空間を作る際に「光」という要素を大事に考えていただければ、これほど喜ばしい事はありません。その基礎を作るべく光の地位を向上させる様に精進してまいります。



長野県蓼科のリゾートホテル案件の外観



大阪府南堀江のレジデンス案件の内観



東京都新宿の高級時計店舗案件の内観

※記事において、学科等の名称をアルファベットで表記している箇所があります。

M…機械工学科(機械システムコース)、E…電気情報工学科(電気電子コース)、D…電子制御工学科、J…情報システムコース、C…物質工学科(化学・バイオコース)、A…建築学科(建築デザインコース)、G…教養教育部門、S…専攻科
 例えば、「2-1(M)」は2年1組機械システムコースの学生を表しています。

発行：米子高専広報室 〒683-8502 鳥取県米子市彦名町4448 TEL: 0859-24-5000 FAX: 0859-24-5009
 ホームページ：https://www.yonago-k.ac.jp/ PDF印刷：勝美印刷株式会社



ISSN 1344 - 5634

米子高専図書館報
第118号令和5(2023)年12月 発行
米子工業高等専門学校図書館

「読書感想文コンクール」の入賞作品を紹介します

図書館では、本科1年生を対象に、国語科の協力を得て、今年度も「読書感想文コンクール」を開催しました。学生が自由に選んだ図書について、原稿用紙3枚以上、5枚以内で感想文を書き、夏期休業後に提出してもらいました。

応募作品数は140あり、1次審査で、各クラスから2～3作品が選ばれ、12作品が2次審査にノミネートされました。

2次審査では、その中から審査員が順位をつけ、下記のように入賞者を選びました。最優秀賞・優秀賞は複数の審査員が高く評価した作品です（作品の後に選評も掲載しています）。

11月29日～12月4日開催の図書館運営委員会で最終審査・決定し、12月7日に校長室で表彰式を行いました。

最優秀賞			
クラス	名前	読んだ本	著者
1-1	長尾 空	ベスト	アルベール・カミュ
優秀賞			
1-2	三宅 希来	沈黙	遠藤周作
1-5	平田 心美	六人の嘘つきな大学生	浅倉秋成
佳作			
1-2	安達紗里衣	蜜蜂と遠雷	恩田陸
1-5	梅田 優太	グスコブドリの伝記	宮沢賢治



校長室での表彰式

「読書感想文コンクール」の入賞作品を紹介します

最優秀賞と優秀賞の作品（読書感想文）を掲載します。

最優秀賞 ペスト

1-1 長尾 空

世界の不条理に直面した人間は何を考え、どう行動するのか、例えば不条理に抗い正義や道徳に従い戦おうとする、片やそのようなことから逃げようとする、宗教などと結びつけて意味づけようとする。このような行動がどのような結果をもたらすのか。感染症の蔓延した社会における人間のあるべき姿を考えさせられることとなった。

なぜ生きるのか、なぜ死ななければならないのか、なぜこんなにも苦しまなければならないのか。ときに私はこう思うことがある。

この本の筆者、アルベール・カミュはどうだったか。小説家や劇作家、思想家として注目されていた彼は、病気、死、災禍、殺人、戦争など不条理との戦いをテーマとして生涯を通して描いた人物だった。この「ペスト」という作品は、人々が普段何気なく過ごしていた平穏な日常が、突如として疫病によって崩壊していく様子が描かれている。これは現代社会でも私たちがコロナウイルスを通じて経験したことと酷似している。そんな共通点のあるこの作品を読めば世の中の不条理に対し「どう行動すればよいのか」というヒントを得られると思い読んでみることにした。

この物語を読みすすめていくとキリスト教の司祭であるパヌールが神とは何なのか、自分の信じていたことは本当に正しいのか葛藤するシーンがある。そのような考えを持っているのはキリスト教からすると異端なのではないか、司祭としてあってはならないと私は初め思っていた。だが、物語が展開していく過程で考えが変わった。病や死などの不条理は神の天罰と考えていたパヌールはある日ペストに感染した一人の男の子に出会う。医師達は血清を使う



が開発が失敗しており少年は悶絶しながら苦しんで死んでいった。その様を見ていたパヌールはこのことに対し説明ができなかった。無垢な少年が死んだことを神の裁きではないと考えたからだ。そして悩んだ末、人々の前で演説をした。

「神による罰ではないかもしれない。」

この言葉から、司祭ではなく一人の人間としての大きな迷いがあり人間性を感じたためパヌールという一人の人間にとっても引き込まれた。それでもこの後ペストに感染したパヌールは、神の思し召しならば治療を受けることすらもおかしいのではないかと自分の信じたことに従い治療を拒否し息絶えていった。そんな姿にも私は感銘を受けた。

一方では不条理に対し嫌悪する者もいた。それは主人公であるリューと共に保健部隊を結成しペストに果敢に立ち向かったタルーという人物である。タルーは医師リューとは異なった行動原理を持ち救急活動のサポートをしていた。そんな彼の行動原理は幼少期の体験が強く影響していた。ある時、検事である父親の扱っていた裁判を見に行くことになったタルーはそこで父親が罪人に死刑を求刑し、最終的に死刑宣告がなされるのを知るシーンがある。そこで衝撃を受けたタルーは、圧倒的な不条理に嫌悪感を覚える。そして、この嫌悪感こそが「人間が人間の生存の是非について判断を下す権利はあるのか」という疑問だ。この疑問こそが、本作の重要なテーマだと私は考える。

「僕が心をひかれるのは、どうすれば聖者になれるのかということだ。」

タルーの言葉だ。人は神によらずして聖者になりうるのだろうか。私はすぐには想像がつかなかったが、本書を読み終わった後改めて考えてみた。この世には必ず天災と犠牲者が存在する。死刑制度を容認することは迂回的に不条理な死を受け入れるということで、それはつまり現実から目を逸らし生命の犠牲に同意することになると考えたのではないだろうか。「最も救いのない悪徳とは無知である。」と本書に書かれている。この言葉に私は驚嘆させられた。知識がないことは無力ではなく悪になり得るということだ。つまり天災と犠牲者があるということは自分自身が天災になるようなことがあるかもしれない。それでもタルー自身は間接的であっても不条理に同意せず、死に向き合わされる人間の弱さに共感

「読書感想文コンクール」の入賞作品を紹介します

し理解したいというのが根本的な気持ちだったのではないかと思えた。

「ペストは決して消滅することはない。」本書では不条理をペストという感染症で表現しているがそれはただ一つの形にすぎないと思った。「消滅することはない」これは、人間たちにはつねに不条理が襲いかかることがあると伝えようとしているのではないか。本書には私の知りたかったことは書かれていなかった。正義は何ひとつ示されていなかったのだ。世界の不条理に直面した人間は何を考え、どう行動するのか。それは、それぞれの生き方を基に多種多様な行動をするというのが答えだった。死に対してどう向き合うべきなのか。私たちはそれぞれの生き方で不条理を乗り越えていかななくてはならない。

選 評

- 抽象度の高い内容に対して向き合い、社会への関心の高さを感じる。
- 現代社会の状況と結び付けて考察できている
- 不条理にどう向き合うか、登場人物を挙げながら、自分がどう考えるのか、考え続けしていくことが書かれている。

優秀賞 沈黙

1-2 三宅 希来

私にとって「愛する」とは、その人が苦しい思いをしているときに優しい言葉をかけて慰めるといったことだった。しかし、この本に出会ったことにより、その認識が少し変わったように思う。

「沈黙」は、鎖国中の日本へ潜入したキリスト教司祭ロドリゴの苦悩を描いた作品である。私はキリスト教の信条や教えに興味を持ち、この本を読み始めた。

当時の日本はキリシタンによる反乱が起こった直後であり、幕府は国内の信者を海中にはりつけにする「水磔」や、顔が汚物につかるように逆さに吊るす「穴吊り」などの残酷な拷問にかけて、苦しませ

ながら死なせていく。これらのシーンはとても生々しく表現されており、私のページを繰る手が重く感じられた。

そんな信者たちを目の当たりにした司祭は彼らのために祈りを唱えるが、神は静かに“沈黙”を貫き、自分の信者のために何もしようとはしない。ロドリゴのキリストへ信仰する気持ちが揺らいでいく。

やがて、ロドリゴもキチジローという男に裏切られ、幕府にとらえられてしまう。司祭は、自分がこれから絵踏みにかけられることを悟り、「絶対に棄教するまい」と固く心に誓う。獄中では外から、ある「鼾」が聞こえてくる。その音を耳にして、噛い、より一層その気持ちは強まっていく。その時に、長年にわたり日本で布教を行い、すでに棄教をしている“元”神父の沢野忠庵に出会う。沢野から、「鼾」は「穴吊り」にされている信者のうめき声だということ、ロドリゴが棄教しなければ信者を解放しないことが告げられ、ロドリゴは、真に棄教と信者との狭間に立たされることになる。どれだけ祈っても何もせず、ただ見ているだけの神。沢野は甘い言葉をロドリゴに語りかける。

「今まで誰もしなかった一番辛い愛の行為をするのだ」

こうして司祭は絵に足をかけたのである。この時、初めて神が“沈黙”を破り、踏むがいいと仰ったのだ。

クリスチャンにとって絵踏みをする、すなわち棄教をすることは、今まで信仰してきた教え、さらには自分の人生そのものをすべて否定することにほかならない。だから、そういった意味を孕んだ「愛の行為」に踏み切ったロドリゴに私は非常に感動した。「今までとはもっと違った形であの人を愛している。」

この言葉は、ロドリゴが棄教したのちに発言したものである。違った形とは、それまでの「祈ったものは救われ、教えに背いたものは見捨てられる」という、無情で冷たい形ではなく、「裏切ったものの痛みを理解し寄り添う」という、真反対の温かみのある形であると私は考えた。

私は、静かに相手に寄り添い、痛みや喜びを分かち合うことも「愛する」ことなのだと知った今、家族や友達に対して、どんなことがあっても味方であり続ける、太陽のような存在として生きていきたい。

選 評

- 宗教弾圧のような想像もつかない重いテーマを



「読書感想文コンクール」の入賞作品を紹介します

正面から考えている。

- 表面的でなく、自分の問題として考えている
- 本から得た新しい考えや学んだことについて考察することが出来ている。

優秀賞 六人の嘘つきな大学生

1-5 平田 心美

「当たり前だが、彼らは全員、完全な善人ではなかったかもしれない。でも完全な悪人であるはずがなかったのだ。」

これは、この物語の中で私が一番はっとした言葉です。裏の顔を知っただけでその人の人間性を全て悪と判断してしまうのはどうなのだろう。善と悪は、見方によって違ってくるものなのではないだろうか。良い人悪い人って何だろう。この物語は、これまで深く考えたことのない、けれども人と関わっていく上でとても身近で大切なことを考える機会を与えてくれました。

この物語の舞台は就活。最終選考に残った六人の就活生に与えられた課題は、一か月後までにチームを作り上げ、議論をするというものでした。全員で内定を得るため、六人は交流を深めていくが、本番直前に「六人の中から一人の内定者を決める」という課題に変更されます。それにより、仲間だったはずの六人は、一つの席を奪い合うライバルとなってしまいます。

私は、たとえ課題の変更によって仲間からライバルに変わってしまったとしても、この六人なら議論を通して誰もが納得できる一人を決めることができるだろうと思っていました。なぜなら六人は、全員で内定を得るために交流を深め、お互いの良いところをたくさん知っていたと思うからです。しかし、そんな考えは見事に裏切られました。

内定をかけた議論が進む中、六人のうちの誰かが用意したと思われる、六人が過去に犯した嘘と罪についての告発が入った封筒が発見されます。それは、自分の名前が書いてある封筒を開けると他人の告発



を知ることができるが、それと同時に自分についての告発が誰の封筒に入っているのかわかるという仕組みでした。初めに一人が封筒を開けてしまったことをきっかけに、誰もが完璧で良い人だと信じて疑わなかった人たちの裏の顔が次々に暴かれていきます。裏の顔を知ってその人に失望し、みんなが投票者を変える中、裏の顔を知ってもそんな告発の影響を受けず、初めから選んでいた人のことを信じ投票し続けた、^{しまいおひ}罵依織という人物がいました。そんな罵依織も議論が終わる頃には、人がいくつもの顔を上手に使い分けていることを知り、心から他人を信用できなくなってしまうのです。

私はこんな状況になってしまっても悲しくなりました。でも仕方のないことだとも思いました。私も自分が良い人だと信じていた友達や周りの人間の裏の顔を知ってしまったら、その人の印象は変わってしまうし、程度によっては悪い人だと判断して関わりを避けるようになってしまうかもしれないと思ったからです。

しかし、六人の中の一人である波多野祥吾は当時を振り返り、こう言います。

「おそらく完全にいい人も、悪い人もこの世にはいない。一面だけを見て人を判断するほど、愚かなことはきっとないのだ。」

私は、まるで絡まった糸が綺麗にほどけていくようにもやもやした気持ちから解放されました。また、同時に心疚しい気持ちになりました。今まで人と関わる上で、良いところはたくさん見つけられるのに、好きなどころもたくさんあるのに、一つの悪いところを見つけてしまっただけで勝手に失望し、自ら距離を置いてしまっていたことに気づいたのです。

この本では波多野の言葉を月に例えて教えてくれています。月の裏側は地球からは絶対に見ることはできません。そして月の裏側は、表面に比べて起伏が大きく、クレーターの多さが目立ち、言ってしまうと少し不細工なのだそうです。しかし、どんなに裏側が汚いことを知ったとしても、月が美しいことに変わりはないのです。それは人間も同じで、どんなに悪い裏の顔があったとしても、その人に良いところがあることには変わりがないし、さらにはその悪い裏の顔だけを見方を変えれば良いところかもしれないのです。私はこの物語を通して、人が人を見ているのは、月のようにほんの一面に過ぎず、人間

「読書感想文コンクール」の入賞作品を紹介します／図書館からお知らせ

とは実に多面的な存在であると強く感じました。

テレビのニュースなどを見ていると、なぜ犯人はこんな犯行に及んだのかを過去のネガティブな情報から犯人はこういう人間だった、だからこんな犯行に及んだのだろうと絞めくくっています。そして視聴者はこれを見て、「ああ、怖い。こういう人だったんだ」と納得してしまっているように思います。少なくとも私はそうでした。また、噂話も同様のことが言えると思います。実際はよく知らないのに、あの人はこういうことをしていたから嫌な人だと聞いたら関わらないようにしようと思ってしまいま

す。でも、この本を読んだ今は、そんな単純であるはずがないと思えるようになりました。これからは、多角的な視点を持ち、人の不完全な部分を許すことができる、心の広い人になりたいと思いました。

選 評

- 内容を理解し、素直に伝わりやすい表現で書かれている。
- 読み取りが良くできている。
- 人の多面性や見る視点による違いをニュースや噂話を例に自分の考えを述べている。

図書館からお知らせ

★部門推薦図書とクラス選書が入りました！

前期に、図書委員を通じてリクエストしていただいた、各クラスの選書図書が入荷しました。

また、今年度の部門推薦図書も、同時入荷しています。

クラス選書は新刊コーナーに、部門推薦図書は交流プラザに配架・展示をしています。

どちらも、様々なラインナップの本が揃っています。

ぜひ、手に取ってみてください！



部門推薦図書



クラス選書

★リクエスト図書

読みたい本を図書館にリクエストできます。「読みたい本を探したけど、図書館ではみつからなかった」、「面白そうな本の話の聞いたけど図書館にはない」といった経験がある人は多いと思います。そんな時は図書館「リクエスト図書」の制度を利用してはどうでしょうか。図書館カウンターの申込用紙に記入してポストに投函することにより、購入して欲しい本をリクエストできます。できるだけ要望に応えるようにしていますが、購入できない場合もありますのでご了承ください。

図書館業務・活動記録

6月22日(木) ブックハンティング(1回目)
(今井書店錦町店)

7月11日(火) ブックハンティング(2回目)
(今井書店錦町店)

7月13日(木) 臨時休館(大雨警報に伴う登
校禁止のため)

7月18日(火)～9月8日(金)
夏期長期貸し出しの実施

7月29日(土)・30日(日)・8月5日(土)・6日(日)
前期末試験時の開館

8月1日(火)～8日(火)
図書館運営委員会(第1回)
(Teams 審議)

8月9日(水)～18日(金)
臨時休業(一斉休業等のため)

10月11日(水) 図書委員会(第2回)
創造ゼミナール室2

11月14日(火) ビブリオバトル
(アカデミックシアター)

11月21日(火) 読書感想文コンクール2次審査

11月29日(水)～12月4日(月)
図書館運営委員会(第2回)
(Teams 審議)

12月7日(木) 読書感想文コンクールの表彰式
(校長室)